

## 活動内容とその方法

以下の3地域において参加者は以下の活動を通して目的を実現する。

### 1. 日本（高知県土佐郡土佐町、京都府南丹市美山町、京都府宮津市）

対象とする日本の3地域はいずれも深刻な過疎・高齢問題を抱える地域であり、また申請者らが地域連携事業を展開してきた地域でもある。土佐町では官民学の連携事業として実施されている高齢者検診を視察し、地域連携による地域住民と大学の関わりを学ぶ。また高齢者自身のイニシアティブによる健康維持への取り組みとして「とんからりんの家（NGO）」を視察する。美山町では地域住民の主体的な活動組織の事例として知井振興会を視察し、振興会がどのように大学、行政、民間企業などと連携を築きながら地域づくりや問題解決に向けた取り組みを展開してきたか学ぶ。宮津市ではアクティブ・エイジングや女性の活動参加をテーマに上宮津地域会議や須津婦人会の住民活動を視察し、これらの住民の主体的活動をサポートする行政との関わりを学ぶ。

### 2. ブータン（タシガン県バルツァム郡等）

ブータンでは同郡の過疎、離農、高齢者問題の実態を理解するとともに、GNHを基盤とした活動について若者を中心としたNGOであるHappy Farmers Groupの活動を視察し交流を深める。また、Basic Health Unitが実施しているプライマリーヘルスケアの地域医療システム、及び現地の高齢者ケアシステムであるとして保健省と京都大学が協働して進めている高齢者ケアのプログラムを視察する。またGNHの理念と実践を学ぶためにブータン王立大学シェラブツェ校による地域活動、及び“My Gakid Village(私の幸福な村)”プロジェクトの視察をとおして、GNHの概念とそれに紐づく地域の活動を学びながら、農村の価値、もしくは開発に対する新たな座視の獲得を目指す。

### 3. ミャンマー（マウービン県マウービン郡）

日本、ブータンでの知見をもとに官民学の市民ネットワーク体制を構築し、ウービン郡の1村落を対象に健康診断など的高齢者ケアプログラムを試験的に実施し、市民ネットワークの実践的活動として具現化する。また、現地農村における参加者によるPRA、住民との相互交流を通して集落の過疎や医療問題などの実態を把握するとともに、伝統に根付く人々の暮らしを外部の視点から評価し、集落の将来像とともに官民学の市民ネットワークを活用したさらなる実践的活動計画を作成していく。

参加者は対象地域である3ヶ国を往来し、それぞれの地域において、教え、教えられ、共に考えるという対等な関係性のなかで、協働・共創のネットワークを構築していくことを目指す。また各国訪問時には大学(ブ：ブータン王立大学、ミ：マウービン大学)もしくは農村(日：京都府宮津市)を会場として、住民参加型ワークショップを実施し、相互の学び合いを深めつつ、アウトプットとして知見の共有とその波及を促進していく。

